

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (271)

三・卅

散歩から帰ったタモツ君とお父さんが話しています。

「キヘンに神のサカキとかキヘンに佛のシキミとかって、おもしろいね。」

「お兄ちゃん、エミも「三」という漢字を造ったよ。」と、エミちゃん。

「シという漢字でしょ。」

「どうしてわかったの。」

「一、二、三、三だから。」

「そう。十、廿、卅、卍も。」

「エミ、おじいちゃんにもらった大きな辞書を見ていたら、三も卍も出ていたよ。エミよりも先に、造った人がいたんだよ。」

「エミ、残念でした。」と、お父さん。

確かに、

「1、2、3」=「一、二、三」いう法則だと、
「4」は「四」ではなく「三」になるよね。

とお
10 = 十

にじゅう
20 = 廿 「十(とお) 十十(とお)」

さんじゅう
30 = 卅 「十(とお) 十十(とお) 十十(とお)」

しじゅう
40 = 卍 「十(とお) 十十(とお) 十十(とお) 十十(とお)」

というのも、法則性があるとおもしろいね。



【編集部注】『新潮日本語漢字辞典』によると、「三」は「四」の別体として収められ、「卍」は音「シウ(シフ)㊦㊧」、訓「しじゅう(しじふ)」として収められています。